

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K12469

研究課題名（和文）戒厳令期台湾の民主化運動とキリスト教 在外台湾人組織の分析から

研究課題名（英文）The Democratic Movement and Christianity in Taiwan during Martial Law: An Analysis of Taiwanese Organizations Abroad

研究代表者

藤野 陽平（FUJINO, Yohei）

北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・准教授

研究者番号：50513264

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）： コロナウイルスの影響がなかった2019年度には台湾での現地調査とその分析を行ったが、2020年度以降は海外への渡航が不可能となったため、それまでに収集していた資料と国内で取り寄せ可能な資料の読み込みを行うこととした。
その結果、台湾の民主化運動の先鞭をつけることになった台湾基督長老教会の3つの宣言を取り巻く環境、民主化運動の記念碑的事件である美麗島事件とキリスト教の関係、日本における台湾の政治犯支援活動とキリスト教の関係などを明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の最大の貢献は台湾の民主化運動研究における重大な欠を補うことができたことにあるだろう。これは単に当時の様子が明らかになったということだけではなく、現代の台湾社会を理解する上で重要なポイントであった。加えて、近年の新しいメディアを用いた社会運動はこれまで以上に国境を越えた協力関係を構築している。この時期の台湾の状況が明らかになることで、現代における世界規模の民主化運動の理解の一助となるだろう。

研究成果の概要（英文）： In 2019, when the coronavirus had not affected, I conducted a field survey and its analysis in Taiwan. However, since it was no longer possible to travel abroad after 2020, I decided to read the materials I had collected until then and those I could order domestically.

As a result, I was able to clarify the environment surrounding the three declarations of the Christian Presbyterian Church of Taiwan, which were to pioneer the democratic movement in Taiwan; the relationship between Christianity and the Meilidao incident, a monumental case of the democratic movement; and the relationship between Christianity and Taiwan's political prisoner support activities in Japan.

研究分野：文化人類学

キーワード：台湾 民主化運動 日台連帯 キリスト教 政教関係 白色テロ 政治犯

1. 研究開始当初の背景

ひまわり学生運動、同性婚の合法化、脱原発、再生可能エネルギーの積極的な導入といったことが知られるように、今日の台湾社会は民主化の度合いが高いと考えられている。しかし、こうした自由で民主的な雰囲気は、さほど古いことではなく、戦後1949年から敷かれた戒厳令が解除されたのは1987年のことで、それ以前には市民の自由は大きく制限され、現在の姿とは絶世の感があった。

この台湾の民主化に向けた動きが生じたのは1970年代のことであるが、台湾の民主化運動に先鞭をつけリードしてきたのが台湾基督長老教会を中心とした台湾アイデンティティの強いキリスト教会であった。しかし、台湾の民主化に関する研究の大多数は宗教とは異なるアクターに注目があつまっており、キリスト教という重要なアクターが等閑視されてきた。

また、この時期を対象とした研究には当時の台湾が戒厳令下にあり、出版物が検閲下におかれていたという問題もあり、当時の台湾内で流通していたメディアを分析対象にするには限界がある。そこで当時の台湾の民主化運動をリードしていた別のアクターである在外台湾人グループのキリスト教関係者に注目することで、検閲を逃れ自由に発言できる状態での情報収集を行う必要があった。

2. 研究の目的

そこで本研究では戦後台湾の民主化運動におけるキリスト教の位置を確認することで、情報の空白地帯である70-80年代の台湾の民主化運動の解明に寄与することを目的とした。東アジアの戦後キリスト教研究という意味では韓国や日本が主たる対象とされ、台湾の研究は大きく立ち遅れている。本研究により、多角的で総合的な解明に近づくことができるだろう。

台湾のキリスト教徒の割合は3-5%ほどとみられている。1%未満と言われる日本に比べれば多いものの、アジアでのフィリピンや韓国と比べて多くはない。この良くも悪くも中途半端な数字のためか、台湾のキリスト教研究は未発達領域であったのだが、その研究に意味がないのかということではない。特に台湾の台湾基督長老教会(以下、長老教会)は台湾の最も歴史が長く最大の信者数を抱えるプロテスタント教会であり、教育や医療等への影響は計り知れない。さらに1970年代に民主化運動の先鞭をつけたという意味で、東アジアの民主化運動の理解にとって欠くことのできない対象である。

長老教会は1971年に『国是声明』と呼ばれる声明を発表したのを皮切りに、1975年に『我々のアピール』、1977年に『人権宣言』と立て続けに公然と政府を批判した。当時は国民党による一党独裁期の戒厳令下であり、生命の危険や組織の解体を顧みない行為であった。当時の台湾社会で、こうした声明を出した団体は類を見ず、ただ長老教会だけがキリスト教という独特な立場を利用してかろうじてこうした行動をとることができた。

独特な立場とは、中華人民共和国、共産党と対立する中華民国、国民党は反共産主義を掲げるために、信教の自由を認めざるを得ず、国際社会に向けて宗教弾圧をしているとみなされる訳にはいかなかったことに加えて、国共内戦が圧倒的不利な状況にあって米国の支援なしには立ちいかず、長老教会はキリスト教ネットワークを通じたロビー活動を宗教の政治への影響の大きい米国で行っており、無碍に弾圧できなかったということがあげられる。このことによって台湾社会において長老教会は独特な位置を占めることができ、危険を伴ったものの、他の団体では不可能であった政府に反対する立場を表明できた。

このように重要性の高い東アジアのキリスト教研究における台湾であるが、日本における台湾の民主化運動研究においては資料的限界と宗教という対象への無関心から取り組まれることはなかった。台湾における台湾研究では日本語という問題があり、本研究のように在日台湾人社会から台湾の民主化運動を考えるという視点は管見では見られない。このように本研究の対象はエアポケットでありながら、台湾の民主化運動、ひいては東アジアの民主化運動の理解のための欠くことのできない重要な部分を構成している。これを扱う本研究の意義は大きく、また、他の研究者には扱い得ない。

3. 研究の方法

当初はフィールドワークによる文献収集、当事者らへのインタビュー、教会における参与観察とそれらの分析を行うことを計画していた。初年度の2019年度は夏期に台湾で現地調査を実施し、関係者へのインタビュー、関連図書館での資料収集など順調に進んでいた。2020年の1月には台湾の総統、国会議員選挙が行われ、その際にも参与観察を行った。しかし、その後、新型コロナウイルスのパンデミックにより、海外渡航が困難となり大きく計画の変更を余儀なくされた。

そこでフィールドワークの実施は諦めて、国内で実施できる文献調査へとその方法論をシフトさせた。移動や人との接触を控えることが求められる中、関係者へのインタビューなども不可能となったため、資料の分析にその時間をさいた。

具体的には台湾青年社の『台湾青年』、キリスト新聞社の『キリスト新聞』、台湾の政治犯を救う会の『台湾の政治犯を救う会活動記録』、日本基督教協議会キリスト教アジア資料センター『アジア通信』、日本キリスト教団の『台湾キリスト長老教会の歴史と苦難』、『台湾に光を 協約 10 年の展望・資料集』といった史料を取り扱った。

4. 研究成果

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた本研究ではその前後で成果の質が異ならざるをえなかった。2019年度は当初の計画通り現地調査を実施することができたので、関連資料の収集、関係者へのインタビュー調査などを行った。特に後者を通じて複数の当時を知る関係者と知り合うことができた。本来であればこうしたインフォーマントへの継続調査を行いたかったのであるが、それができなくなってしまった。ただし、今後も調査研究への協力が得られるため、海外渡航が可能となった際の課題としたい。

2020年度以降は国内でできる資料収集とその分析を行った。具体的には台湾基督長老教会が1970年代に提出した3つの宣言の扱われ方を調査した。戒厳令化にありながら海外へと伝えられる情報が質量ともに増加し、徐々に戒厳令に綻びが生じ、台湾島内での運動の機運が高まっていたこと、海外へ情報を持ち出すことが徐々に可能になっていったことなどが明らかになった。台湾の民主化運動の分水嶺となった1979年の美麗島事件(高雄事件)においてキリスト教徒がどのように関わってきたのかについて資料を読み込んだ。それまで党外と呼ばれた民主化を求めるグループと教会とは別々に行動していたが、この事件を通じて両者が歩調を合わせていく姿が明らかになった。

文献調査を通じて「台湾の政治犯を救う会」(以下救う会)というグループが日本で活動していたことが判明した。政治犯に関する当時の情報を台湾から持ち出したり、日本国内で台湾の状況を伝えたりするなど重要な意義を持っていたグループであるのだが、全くといっていいほど知られていなかった。そこで基礎的な資料を収集し、日本から台湾を支援していたグループとキリスト教との関係について調査を行った。奇しくも2021年9月から台湾の国家人権博物館による初めての海外特別展である「私たちのくらしと人権」が東京の台北駐日経済文化代表処台湾文化センターにて開催され、救う会も紹介された。その後、本展示に関わった日本台湾教育支援研究者ネットワーク(SNET台湾)と協力し、救う会の当事者へのインタビュー調査を開始した。新型コロナウイルスの感染状況を見極めながらの実施となっているが、聞き取り調査を継続することでこれまで明らかになってこなかった日台の連帯の姿とそれに関わるキリスト教の実態が解明できると見通している。

関連して、東京で閉幕した特別展「私たちのくらしと人権」を2月に札幌で開催した。近年日本からの関心が高まってきた台湾であるが、戦後、特に国民党による独裁政権下の出来事については知られていないことが多く、本研究とも関連する本展示を札幌で開催できたことはアウトリーチングとしての意義は大きい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 開いたものと閉じたもの 付度と連帯という視点から
3. 学会等名 緊急座談会（ウェビナー）「ポストコロナ時代の東アジア 新しい世界のコミュニケーション」（北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院東アジアメディア研究センター）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠藤協/藤野陽平
2. 発表標題 台湾における「日本神信仰」に関する民族誌映画の制作から
3. 学会等名 慶應義塾大学東アジア研究所第35回学術大会（慶應義塾大学東アジア研究所）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 FUJINO Yohei
2. 発表標題 領土とマイノリティ 北方領土とアイヌ政策の間の道東のアイヌ表象
3. 学会等名 Online International Seminar of Japan-Russian collaboration on Articulations of Indigenous Culture between HU SoE and the NEFU（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 重層的周縁からの脱却 長老教会に見る台湾独立運動と民主化運動
3. 学会等名 【基盤研究(B_2)】<周縁>からの東アジア国際秩序の探求 台湾・沖縄の間主観と国際関係史の視座研究会、「「大国」の周縁にある「自己」という中心 台湾の宗教家と香港の哲学者を事例に」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 ドキュメンタリー『私たちの青春、台湾』上映後トーク
3. 学会等名 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院東アジアメディア研究センター
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 すれ違う台湾の日本神へのまなざしと実践
3. 学会等名 第34回慶応義塾大学東アジア研究所学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yohei FUJINO
2. 発表標題 From a cursing ghost to a god of friendship between Japan and Taiwan: The construction of gaze to Japanese spirits in Taiwan
3. 学会等名 The 2nd Annual Conference of the EASSSR 2019, East Asian Society for the Scientific Study of Religion (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 民俗宗教としてみる台湾の日本神
3. 学会等名 メディア・コミュニケーション研究院「メディアと東アジア」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 ボーダーから遠ざかりボーダーを意識する 台湾の国家人権博物館白色恐怖緑島記念園區の事例から
3. 学会等名 メディア・ツーリズム研究センター主催シンポジウム「国境と観光：国境地域に学ぶ」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 親日台湾を求めて：観光化する台湾の日本神の例から
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究課題研究会（グローバル化時代における「観光化/脱観光化」のダイナミズムに関する研究）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 FUJINO Yohei
2. 発表標題 From Sunflower Back to Formosa: The Actions of the Presbyterian Church in Taiwan to Democratization Movements in after-war Taiwan
3. 学会等名 The 2021 Annual Meeting East Asian Society for the Scientific Study of Religion (EASSSR) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 開拓と宣教のせめぎ合い 北海道のキリスト教建築にみるまなざしのポリティクス
3. 学会等名 仙人の会、2021年度7月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 解説トーク
3. 学会等名 台湾映画『返校 言葉が消えた日』解説トーク
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 不可視化した台湾の民主化を伝えた日本のキリスト教 1980年代の日台キリスト教の民主化へ向けた連帯として
3. 学会等名 東アジアと同時代日本語文学フォーラム（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 1980年代の日台キリスト教の民主化へ向けた連帯 - 美麗島事件後の動きを中心に -
3. 学会等名 韓国・台湾・日本国際共同学会大会「東アジアの国家暴力、再現と連帯」（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 終戦後満州から台湾へ移動した日本人女性の道のり
3. 学会等名 シンポジウム「引揚げと帰国：引揚げ第一歩の地『長崎』で考える」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 賭博の神から正神へ 台湾の日本神信仰にみる勸善懲惡とは異なる風紀の姿
3. 学会等名 北海道宗教研究会第11回研究例会、科学研究費補助金・基盤研究(B)「現代ムスリム社会における風紀・暴力・統治に関する地域横断的研究」共同研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 ポスト・コロナ時代における「モノとメディアの人類学」の限界と可能性
3. 学会等名 東アジア人類学研究会第七回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤野陽平
2. 発表標題 台湾で「鬼」になった日本人
3. 学会等名 二松学舎大学 文学部シンポジウム「幽霊の歴史文化学 - それはどこに宿るか」(招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 玄武岩、藤野陽平	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 ポストコロナ時代の東アジア	

1. 著者名 松山健作、藤野陽平	4. 発行年 2020年
2. 出版社 かんよう出版	5. 総ページ数 119
3. 書名 キリスト教文化(16)	

1. 著者名 藤野陽平、奈良雅史、近藤祉秋	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 モノとメディアの人類学	

1. 著者名 長谷千代子、別所 裕介、川口 幸大、藤本 透子、藤野陽平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 394
3. 書名 宗教性の人類学	

1. 著者名 櫻井 義秀、藤野陽平	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 350
3. 書名 アジアの公共宗教	

1. 著者名 和崎春日、藤野陽平	4. 発行年 2020年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 830
3. 書名 響きあうフィールド，躍動する世界	

1. 著者名 Yuko Mio, Yohei FUJINO	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 220
3. 書名 Memories of the Japanese Empire: Comparison of the Colonial and Decolonisation Experiences in Taiwan and Nan 'yo-gunto	

1. 著者名 奈良雅史、藤野陽平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上智大学イスラーム研究センター	5. 総ページ数 148 + Viii
3. 書名 多元化する台湾のムスリム・コミュニティ	

1. 著者名 上水流久彦、藤野陽平	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 248
3. 書名 大日本帝国期の建築物が語る近代史	

1. 著者名 三尾裕子、藤野陽平	4. 発行年 2022年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 384
3. 書名 台湾で日本人を祀る	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------